

「訪問介護員の介護技術チェックリストの開発研究」報告書

序章

1. 研究の背景および目的

介護保険制度の導入からほぼ3年が経過し、介護報酬の見直しも実施された。利用者が住み慣れた家で生活する「在宅介護」がますます重要視され、訪問介護サービスの担う役割もより大きなものとなっている。介護保険制度上の訪問介護（ホームヘルプ）サービスに従事する訪問介護員（ホームヘルパー）は、訪問介護員養成研修を修了、または介護福祉士資格を取得したものに限定されている。その意味でサービス提供者の質には一定の標準化が図られていると言える。しかしながら就業後に一定の業務ルーチンの繰り返しを通じて介護技術を確かなものに行っている施設勤務者と比較して、在宅サービスに従事する訪問介護員は、対象者の状態による援助ニーズに幅があり、介護技術の基礎がためをするOJT(On the Job Training)の機会を持ちにくく、現任者の多くに基礎的な介護技術への不安が見られることが実態調査で示されている(平成11年長寿社会福祉基金事業「ホームヘルパーの技術向上に関するニーズ調査」)。

これらの基礎的な介護技術に対する不安解消は、所属事業所の現任研修でその克服が期待されるが、苦手とする介護技術には個人差が見られるため、一斉指導が中心となる事業所の研修にも一定の限界がある。より現実的には、指摘された各個人の苦手技術を訪問介護員が自習し、その達成度をサービス提供責任者等にチェックしてもらうことが効果的と思われる。

このような状況の中で、平成14年度より「訪問介護員資質向上等推進事業」が予算措置され、現任者向けの研修が各地で散見されるようになってきたが、その内容は困難ケースへの対応や座学中心の講習会などが多く、基本的な介護技術の復習や定着を目指したものは少ないように見受けられる。

ダイヤ高齢社会研究財団では平成11年より訪問介護員の質の向上を図るための現任研修を東京都町田市と共催で継続しているが、介護技術の個人格差は著しく、また全体的な水準もかなり低い状況にあるといえる。また訪問介護員の指導的な役割を担う「サービス提供責任者」の介護技術も決して高い水準にあるとはいえず、介護サービスの質の底上げという面から「基本介護技術」の確実に身につける事が喫緊の課題である。

そこで本研究では、基本介護技術の習得度を確認するための「介護技術チェックリスト」を開発することを目的とした事業を行い、その成果を報告書にまとめた。今回開発を目指している介護の技術チェックリストは、初心者が過ちを犯しやすい手技や姿勢、安全確認の不備などごく基本的な事項を中心としている。訪問介護員養成研修で一度は学んでいる技術であり、忘れてしまっている技術をより具体的に確認できる簡便な教材をめざした。開発に当たっては、在宅で必要とされる援助技術に絞った上で、出来る限り標準的な介護技法を採用することに努め、サービス提供責任者や管理者が個別指導を行う際の教材を供すると同時に訪問介護員自らの苦手技術の解消にも活用できることに留意して取り組んだ。

3. 研究体制

研究の推進にあたっては、学識者委員会と作業部会を設置して取り組んだ。それぞれの役割と委員構成は以下の通り。

1) 研究委員会

◆目的：リスト試案に対する学術的アドバイスおよび研究・普及に対する戦略立案

◆委員構成

- ・是枝祥子(大妻女子大学助教授)
- ・佐藤富士子(大妻女子大学講師)
- ・浦尾和江(浦和女子短期大学講師)
- ・小木曾庸浩(財)介護労働安定センター能力開発部部长)
- ・伊東寛(町田市役所高齢者介護課主査)
- ・石橋智昭(ダイヤ財団主任研究員)

◆開催

第1回：平成14年5月27日 6名

第2回：平成15年3月18日 4名

2) 作業部会

◆目的：技術リスト開発の実働組織として、リストの試案を策定および試験評価を担当

◆委員構成(2級養成研修講師経験を有する首都圏在住の介護福祉士7名)

- ・野本淑子(訪問介護ダスキン, 介護福祉士)
- ・笹岡淑子(たちばなホーム, 介護福祉士)
- ・石崎節子(ロイヤルライフ奥沢, 介護福祉士)
- ・生沼成子(川崎社協, 介護福祉士)
- ・永福 泉(フリー, 介護福祉士)
- ・中 洋子(フリー, 介護福祉士)
- ・高瀬照子(フリー, 介護福祉士)
- ・滝波順子(ダイヤ財団委託研究員)

◆開催

全17回開催：延120名

4/18(6名)・5/8(6名)・5/15(6名)・5/20(7名)・5/29(7名)・6/3(3名)・6/12(4名)・6/19(5名)・6/26(4名)・7/1(4名)・7/15(5名)・7/27(5名)・8/24(5名)・9/24(5名)・10/9(4名)・11/16(5名)・12/14(5名)。()は委員出席人数

3) 評価手法・解析アドバイス

◆内 容：尺度づくりの基本的手続き、収集データの加工・解析方法についての指導

◆指導者：古谷野 亘(聖学院大学教授)